

2020年度事業活動報告、決算報告、 剰余金処分案承認の件

2020年度事業活動を振り返って

2020年度 私たちが取り組んだこと

■全体概況

- ◇2020年度は、2020年ビジョン「食と農による持続可能な社会の創造」の実現に向け、第7次中期計画（2017～2020年度）の取り組み最終年度として「組合員の参加参画を高め、信頼ある事業活動を通じて、地域から必要とされる生協をつくります。」をテーマとして取り組みました。
- ◇組合員数は、2021年3月末で339,491人（2020年3月末比+1,870人）、総事業収入額で566.8億円（前年比116.0%、予算比115.6%）、パルシステム事業供給高552.3億円（前年比116.7%、予算比116.3%）、福祉事業の事業収入額2.2億円（前年比102.0%、予算比96.0%）、全体の経常剰余額は22.5億円（前年比388.9%、予算比895.2%）となりました。
- ◇7年目を迎えた「“選ぶで変わる”『ほんもの実感！』くらしづくりアクション」は、エシカル消費（※1）を軸としたSDGsの取り組みとして、非遺伝子組み換え原料や国産産直原料を活用した商品づくりに継続して取り組みました。一方で、計画していたパルシステム商品の価値や作り手の想いを伝える取り組みは、上半期は新型コロナウイルス感染症の影響により中止としましたが、下半期よりオンラインを活用した学習会や『パルゆめつなごう展（オンライン商品展示会）』では1,000回を超えるアクセス数となるなど、想いを込めた商品や生産者への共感をひろげる取り組みをすすめました。
- ◇子育て世代への新たな取り組みとして2020年1月より神奈川県やテレビ神奈川と開始した「かながわMIRAIキャンペーン」は、1万件を超える赤ちゃんのいるご家庭へ「はじめてばこ（※2）」をお届けし、2,805件の新規加入につながりました。
- ◇共済・保険事業は、『かながわMIRAIクラブ』（※3）登録者や新たに加入された組合員を重点的に組合員同士の助け合いの心を形にした共助の取り組みを伝え、CO・OP共済加入件数9,169件（予算比123.8%、前年比130.7%）、累計保有件数は94,196件（純増4,103件）となりました。
- ◇電力事業は、専門部署の新設やスタッフの補強など推進体制を強化した結果、パルシステムでんきの新規契約数は、2,145件となり、累計では8,500件を超えました。

<用語説明>

※1 エシカル消費（倫理的消費）

環境、人、社会、地域に配慮した物やサービスを積極的に消費する行動。また、環境や人権に配慮しない企業の商品を排除する回避行動も含まれる。

※2 はじめてばこ

「地元の未来を明るく」をコンセプトに、神奈川県、テレビ神奈川と連携し、県内の子育て支援やくらし課題解決をめざしたコラボレーション企画「神奈川 MIRAI キャンペーン」の主軸となる事業で、県内に生まれた赤ちゃんとそのご家族へ祝福の気持ちを伝え、応援するためのプレゼントボックス。

※3 かながわMIRAIクラブ

「はじめてばこ」をお届けし、パルシステムに加入された組合員が対象。生後6カ月までに登録いただき、お子さんが1歳の誕生日をお迎えになるまでプレゼントやイベントの情報をお届けする。

- ◇福祉事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により新規利用の拡大には至りませんでした。既存事業所の事業改善として中重度利用者の受け入れや身体介護サービスの拡充を行った結果、福祉事業収入 229,704 千円（予算比 96.0%/前年比 102.0%）、事業剰余 9,244 千円（予算比 94.3%/前年比 88.1%）となりました。
- ◇活動に参加、参画しやすい環境づくりとして、拠点を活用した企画の開催や、オンラインを活用した産地交流ならびに学習会の開催のほか、組合員講師による講座の動画配信や在宅で参加できるボランティア活動や栽培体験など、新たな生活様式を取り入れた活動に取り組み、活動組合員は 398 人（前年 463 人）となりましたが、新型コロナウイルスの影響により上半期の活動を見合わせた企画も多く年間企画数は 385 回、延べ参加人数 8,018 人（前年 19,945 人）と前年を大きく下回りました。一方で、新たに組合員同士で教え合い学び合う『まなびパル』を 2020 年 10 月から開始し、累計開催講座数は 194 講座、延べ 669 人が受講しました。
- ◇食をめぐる課題への取り組みとして、遺伝子組み換え食品やゲノム編集食品、コア・フード連続講座による環境保全型農業の学習会を開催したほか、アレルギー症状のあるお子さんをお持ちの組合員を対象とした「食に悩んでいるママ集まれ！」企画などオンラインを活用した学習や情報交換の場を提供しました。また、横浜市を中心に神奈川県内の小学校 8 校より「お米の授業」の申し込みがあり、延べ 785 人の生徒が参加しました。
- ◇社会的な課題への取り組みでは、新型コロナウイルスによる生活困窮者増加への食糧支援として産地協議会である「花巻食と農の推進協議会」「宮城みどりの食と農の推進協議会」の協力を得て 6 t のお米を公益社団法人フードバンクかながわへ寄付しました。また、全配送センターでフードドライブを実施し 4,645 点、重量 1,634 kg の協力が寄せられたほか、パルシステムの予備青果を活用し、特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川を通じて各地域の支援団体及び生活困窮家庭へ配る仕組みを 5 つのセンターで開始しました。
- ◇地域とのつながりや安心してくらす地域づくりとして、「健康チェックの会（※4）」を 2020 年 8 月より再開し、南林間地区たすけあい協議会と共催した「健康チェックの会」を含め年間 13 回、166 人へ実施しました。また、子育て世代に向けた育児講座やおしゃべり会などを開催したほか、「インターネット被害未然防止講座」や「ひきこもり女子会 in 神奈川」など、同じ悩みや不安を抱える人たちが安心してくらす取り組みを他団体と連携して行いました。
- ◇すべての子どもが自分の将来を選択できる社会をめざし、子どもたちに寄り添いながら応援する、高校生を対象とした給付型奨学金制度の運用を行う「一般財団法人神奈川ゆめ社会福祉財団」は 4 年目を迎え、誰もが参加できる応援活動として、経済的支援や学習支援、居場所支援など取り組みの紹介を行った結果、4,010 人のサポーター登録につながりました。
- ◇東日本大震災の被災者支援として東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援カンパを実施し、当組合の組合員からの募金額は 2,968,441 円、パルシステムグループ全体では、14,894,233 円の支援が寄せられました。また、震災の記憶を風化させないため、当組合の 10 年間の被災地支援を振り返る動画の配信や東日本大震災と福島原発事故からの 10 年を振り返り、被災地の今を伝えるトークイベントを開催しました。

<用語説明>

※4 健康チェックの会

健康づくりリーダーが主体となり、血圧測定や握力測定など簡単な健康診断を行い、地域に住む方々の健康づくりを応援する取り組み。

- ◇環境保全への取り組みとして、神奈川県の海岸美化活動を行っている、公益財団法人かながわ海岸美化財団に加入しました。また、組合員向けに気候危機と海洋プラスチック問題について学ぶ学習会を開催したほか、県内の小学校で電気や3Rについて学ぶ環境教育出前講座を実施しました。2020年度のプラスチック削減量は前年比23.4t増となりましたが、商品包材の排出量が99.5t増加したため、差し引き76.1tの増加で終了しました。また、パルシステムのエネルギー政策の推進の一環として、原子力規制委員会に対し、「日本原燃株式会社再処理事業所における再処理の事業の変更許可申請書に関する審査書(案)」や「日本原燃株式会社における核燃料物質加工事業の変更許可申請書(MOX燃料加工施設)に関する審査書(案)」に対する意見書を提出したほか、政府と原子力規制委員会に対し、「再生可能エネルギーによる持続可能型社会への転換と六ヶ所再処理工場の稼働に反対する意見書」や、新電力事業者に不利な容量市場の見直しなどを求める「容量市場制度の見直しを求める意見」を政府に提出しました。
- ◇平和活動は、多くのイベントが中止となるなか、オンラインによる平和・国際フェスタ『ハートカフェ2020』の開催や他団体と連携した「夏休み、親子で平和スタディ in 神奈川」の開催や、平和行進に代わるメッセージ動画の配信などさまざまな方法で平和の大切さを伝えました。また、神奈川県ユニセフ協会と協力して、2019年度から5年間の取り組みとして子どもに対する暴力が周辺国と比べても深刻な問題となっているカンボジアへの支援として「暴力と虐待から子どもを守る」カンボジア指定募金に取り組み1,246,865円の募金が寄せられました。2017年から取り組みを開始したヒバクシャ国際署名は、8月末日をもって終了し、これまでに114,692筆の賛同が寄せられました。
- ◇県内で活動する特定非営利活動法人や市民活動団体を資金面で応援する制度『市民活動応援プログラム』は、21年目を迎え、16団体に対して助成を行いました。また、市民活動団体に対し、組合員が応援する「賛助金カンパ」には、662,251円のカンパが寄せられ、対象団体にお渡ししました。
- ◇働きやすい職場環境づくりとして、テレワークや看護休暇、介護休暇の活用促進のほか、時差出勤の奨励や時間外労働の削減、祝日保育などに取り組みました。また、業務効率の向上を目的に、電算処理業務のためのAI-OCR(手書き文書の電子化)とRPA(自動入力処理)を導入しました。未来を支える人材の育成では、これまでの研修方法を見直し、集合型研修を実験的にオンラインによる研修に切り替えました。
- ◇災害時の体制づくりとして、今年度は新型コロナウイルス感染症への対応を最優先に取り組みました。また、災害の際の組合員への広報手段のひとつとして、登録した音声を自動で配信するオートコールシステム(※5)を導入しました。
- ◇組織の内部統制機能を高めるため、新会計システムの導入やハラスメント防止への啓発活動、行動規範教育や外部有識者を含めたCSR活動評価委員会による内部統制の評価などを実施しました。
- ◇設立20周年(創立45年)を記念し、ホームページに20周年記念特設サイトを開設したほか、20周年記念誌の作成や『20周年記念デザイントラック』の制作、組織名称の変更と合わせて駅構内や交通広告、ニュースサイトへのバナー広告の掲出など、パルシステム神奈川の認知を広げる取り組みを行いました。

<用語説明>

※5 オートコールシステム

登録した音声を自動で配信する仕組み。

事業活動方針の年度活動報告（2020年4月～2021年3月）

すすめたい事業

(1) パルシステム事業を通じ、「くらしの価値」をひろげます。

・「選ぶで変わる」『ほんもの実感！』くらしづくりアクション」の取り組みは、新型コロナウイルス感染症の影響による供給量の増加や感染防止対策により、上期はカタログやチラシの配付による紹介のみとし、下期より取り組みを再開しました。また、年間を通して主にパルシステムクリエイティブメンバーによる手書きチラシを配付し、商品を広く知らせる取り組みを行いました。

・「はじめてばこ」の取り組みを通じた子育て層への仲間づくりは、累計で15,406件の申請をいただき、14,479件のご家庭へお届けし、新たに2,805件の新規加入につながりました。

・決まった受け取り場所で曜日・時間を選んで利用できる『ステーションパル（※6）』を開始し、配送センターやふらっとパルなど全18カ所に拡充し、登録人数634人、利用人数245人となりました。また、一部のステーションにて、無人受取システムの実証実験を開始しました。

・パルシステムの質を高める業務改革として、自動注文システムの導入や配送業務の品質の向上を目的とした『パルクオリティ（※7）』キャンペーンを実施し、組合員から配送担当者へ3万件を超える応援やお褒めの声が寄せられました。



『パルクオリティ』宣言

・オリジナルカタログ『いいね！かながわ（※8）』の利用向上の取り組みの一環として、6月度より紙面リニューアルを行いました。また、商品開発では「三浦EMの冬の旬野菜セット」や「神奈川県産津久井在来大豆しょうゆ」の取り扱いを開始したほか、組合員からの要望の声に応え、新たに「足柄茶ほうじ茶ティーバッグ3g×30」と「足柄茶抹茶入緑茶ティーバッグ5g×30」の商品化や地域限定の商品の企画を行いました。



『いいね！かながわ』



ステーションパル
Station pal

<用語説明>

※6 ステーションパル

通常の配達以外に決まった場所で商品を受け取ることができるサービス。

※7 パルクオリティ

配送担当者が組合員により気持ちよくご利用いただけるよう、パルシステム本来の業務品質＝「パルクオリティ」に取り組んでいる。

※8 いいね！かながわ

神奈川県の農業や産業を支える地場の商品や、神奈川県内外の交流産地や提携産地の商品を取り扱うチラシ。当組合の組合員限定で月に一回お届けしている。

- ・人命救助や通報など、地域の方が安心して生活できるよう地域の見守り行動に取り組み、活動事例は41件（うち通報案件26件）となりました。
- ・毎週のお届け時に、お伺いした情報を離れてくらす親族の方へお知らせする「見守り安心サービス」は申請者356人、そのうち神奈川県内の見守り対象者は301人となりました。
- ・安全運転の推進体制の強化や、研修体系を充実させたことで事故件数が抑制されました。

(2) 共済の良さを伝え地域に共助の輪を広げます。

- ・上期は計画した取り組みを中止しましたが、下期より『かながわMIRAIクラブ』登録者等へ案内を積極的に行うなど共済推進行動を再開した結果、加入実績は9,169件となり、年間予算7,406件を達成しました。



『かながわMIRAIクラブ』

- ・CO・OP共済ホームページに「新型コロナウイルス感染症に関するご案内」のバナーを設置し、新型コロナウイルス感染症による共済金の支払いや共済掛金の払込猶予に係る特別措置について、案内を行いました。
- ・昨年度に引き続き、請求忘れゼロ運動や共済長期加入者への感謝企画を実施しました。

- (3) パルシステムでんきの利用者を増やし、再生可能エネルギーを社会に広めます。
- ・上期は計画していた取り組みを中止しましたが、下期より配送担当者からの情報連携をもとに取り組みを行った結果、加入実績は2,145件となり、年間予算1,800件を達成しました。



パルシステムでんき

- ・専門部署の新設やスタッフの補強など推進体制の強化を図るとともに、でんきスタッフへのスキルアップ研修を行いました。

(4) 安定した福祉事業に向けた取り組みを継続します。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、十分な新規の営業ができない状況が続きましたが、既存事業の改善に向けた取り組みを行った結果、目標とした経営指標に基づいた重度利用者比率35%以上に対し、訪問介護が40.4%、居宅介護が25.5%となりました。
- ・パルシステムグループによる合同研修など、多くの研修が中止となるなか、生協10の基本ケア(※9)のセミドル研修やスターター研修などオンラインによる研修を取り入れたスキルアップを図りました。

<用語説明>

※9 生協10の基本ケア

利用者ご自身の「ふつうの生活」を取り戻し、利用者・家族の生活の質を高めていくもので、市民生活協同組合ならコープが母体の社会福祉法人 協同福祉会が2006年4月から実践してきた考え方を基にした介護サービス。

ひろげたい活動

(1) 活動する組合員を増やします。

- ・組合員活動は安定した活動が行えるよう、2019年度に組合員活動プロジェクトで確認した内容へ、4月度より運用を変更しました。
- ・『压榨一番しぼり菜種油オンライン学習会』など、オンラインによる企画の開催や折り鶴ボランティアなど、在宅で参加できる活動を中心に取り組むとともに、活動組合員を対象としたオンラインでの会議や企画に関する研修を開催しました。



『压榨一番しぼり菜種油オンライン学習会』

- ・組合員のライフスタイルに合わせて気軽に参加できる活動『ぱるっと』の開始に向け、次年度から運用を開始できるよう準備をすすめました。



『ぱるっと』

- ・『ふらっとパル鶴見』でのコミュニティ企画や『ふらっとパル武蔵新城』での親子企画などで拠点を活用したほか、新たに『かながわMIRA Iクラブ』登録者に向けた企画の案内なども実施しました。

(2) 食をめぐる課題に取り組みます。

- ・Non-GMO (非遺伝子組み換え)、ゲノム編集食品の学習会を1月15日にオンラインにて開催し198人の参加がありました。遺伝子組み換え、ゲノム編集された食品とはどのようなものか、また、どのよ

うな影響があるとされているのかなど、学ぶ機会となりました。

- ・オンラインを活用した『「ほんもの実感！」国産小麦もちり食パンWEB学習会』や『コア・フード連続講座(畜産・果樹・野菜・お米)』を開催したほか、広報媒体で「コア・フード」「エコ・チャレンジ」記事の掲載や有機JASマークについての解説など、食に関する情報の発信を行いました。
- ・2月27日に『パルゆめつなごう展(オンライン商品展示会)』を開催し、視聴回数は1,026回となりました。オンライン会議ツールを用いることで、集合開催ではない初めての企画開催となりました。



『パルゆめつなごう展(オンライン商品展示会)』

(3) パルシステムの産直、地産地消を広がります。

- ・『おうちでバケツ稲』企画の案内を行い23家族より応募がありました。自宅での田植えの様子やバケツ稲の生長写真、コメントを募集し、産地が確認しコメントするなど、投稿者との交流を行いました。また、参加者を対象にオンライン交流会を開催しました。



『おうちでバケツ稲』

- ・産地ブログでは3つの産地協議会情報のほか、県内産地の紹介など計22回産地情報を発信しました。併せて、花巻農業協同組合、新みやぎ農業協同組合の産地の様子をFacebookでも紹介しました。
- ・自宅で大豆栽培体験ができる『おうちで大豆を育てよう!』に725人の参加がありました。種まきの様子や大豆の生長写真、コメントを募集した結果、104件の投稿があり、一部をホームページに掲載しました。



『おうちで大豆を育てよう!』

- ・2020年度お米の授業は、昨年開催した10校への案内を行い、8校(新規1校)より申し込みがありました。



お米の授業

(4) 地域・人・社会がつながる関係づくりをすすめます。

- ・『まなびパル』を10月から開始し、累計開催講座数は194講座、延べ669人が受講しました。また、自宅で受講できるオンライン講座を7講座公開しました。
- ・『くらし助け合いゆいねっと』の活動を7月から再開し、累計で利用人数207人、利用回数は654回となりました。また、利用できる範囲を、組合員の1親等までの者に広げ、次年度から開始できる準備を行いました。

- ・『集団一時保育すまいる』の活動を9月から再開し、累計で預かり人数23人、活動時間は37時間となりました。
- ・安心してらせる地域づくりの取り組みとして、「健康チェックの会」を8月より再開し、南林間地区たすけあい協議会と共催した「健康チェックの会」を含め13回延べ166人の参加がありました。また、10月には防災・減災の取り組みとして『楽しく♪防災力アップ』を開催し、63人の参加がありました。
- ・公益社団法人フードバンクかながわへの協力を目的として、3分半程度の紹介ビデオを作成したほか、配送センターでのフードドライブの実施や、パルシステムの予備青果を活用し、特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川を通じて各地域の支援団体及び生活困窮家庭へ配る仕組みを5つの配送センターで開始しました。



フードドライブで寄せられた食品(一部)

- ・東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金は、当組合の組合員からの募金額は2,968,441円、パルシステムグループ全体では、14,894,233円となりました。
- ・神奈川ゆめ奨学生サポーターへの協力を募り、4,010人の組合員からの登録がありました。お預かりした年間の寄付合計額8,598,500円は、32人の奨学生への奨学金の給付と学習支援等のサポート活動のため、一般財団法人神奈川ゆめ社会福祉財団に贈りました。
- ・この間、継続して取り組んできた子どもの甲状腺エコー検診と福島保養プロジェクトは2020年度をもって終了とし、今後は県内で保養活動等を行う団体の支援を行うこととしました。
- ・一般社団法人ひきこもりU X会議などと連携し、「ひきこもり女子会 in 神奈川」を開催し、50人を超える参加がありました。

(5) 環境保全・資源循環型社会の実現をめざします。

- ・CO₂削減の取り組みとして、低燃費車両を新たに9台増車し、2台を入れ替えました。また、前年度に引き続き、EV（電気）トラックの実証実験に協力しました。
- ・神奈川県と横浜市に「環境教育出前講座」として、「3R」「電気」「カードゲームで体験 SDG sの世界」の講座を登録し、「3R」講座では、小学校1校、32人へ授業を行いました。また、「カードゲームで体験 SDG sの世界」講座では、小学校1校、140人に授業を行いました。



「カードゲームで体験 SDG sの世界」

- ・今年度計画していた「うちエコ診断」は、イベントの中止により見送りましたが、活動組合員を対象としたオンラインプレ診断を実施しました。
- ・海洋汚染課題への取り組みを広げていくため、神奈川県の海岸美化活動を行っている、公益財団法人かながわ海岸美化財団に加入しました。10月には片瀬西海岸でビーチクリーンを開催し、組合員と役員125人が参加しました。



ビーチクリーン

- ・多摩川干潟観察会や気候危機と海洋プラスチック問題について学習会『マイクロプラスチック・ストーリーぼくらが作る2050年』自主上映会のオンライン配信やPLAによる石けんの使い方動画の作成など、環境をテーマにさまざまな学習会や企画を開催しました。

(6) 平和をくらしの礎にした共生の社会をつくりまします。

- ・ヒロシマ・ナガサキ平和スタディツアーは、動画配信やオンラインを活用した形式での「2020 ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキオンライン」を発信しました。
- ・「原爆と人間展 2020」が中止となったため「夏休み、親子で平和スタディ in 神奈川」としてオンライン企画を開催しました。また、平和行進はオンラインでの平和行進リレー動画として「メッセージ動画」がアップされ、当組合も、組合員とともに平和へのメッセージ動画を作成して参加しました。



平和行進リレー動画「メッセージ動画」

- ・1月23日～2月7日に平和・国際フェスタ『ハートカフェ』をオンラインで開催しました。絵本作家の葉祥明さんや、佐々木禎子さんの折鶴についての講演など講演動画6本（再生回数1,227回）と参加した15の団体のHPや動画による紹介を行いました。
- ・2017年から取り組みを開始したヒバクシャ国際署名は、2020年8月末日をもって終了し、これまでに114,692筆の賛同が寄せられました。



ヒバクシャ国際署名提出

- ・2019年度から5年間の取り組みとして、神奈川県ユニセフ協会が行う「暴力と虐待から子どもを守る」カンボジア指定募金に協力し、今年度は、1,246,865円の募金が寄せられました。



カンボジア指定募金

- ・「核なき世界をめざして被爆者派遣カンパ」にはたくさんの募金が寄せられましたが、NPT再検討会議延期に伴い寄せられた募金はお返しすることとなりました。
- ・オリジナルカタログ『いいね！かながわ』の社会貢献テーマの商品として、新たに「折り鶴タオルハンカチ」を企画し、401点のご注文がありました。また、商品の売上金の一部を「平和国際交流費」「広島市原爆ドーム保存事業基金」へ寄付しました。

つくりたい組織

(1) 協同組合の価値を高めます。

- ・21年目を迎えた市民活動応援プログラムは、40団体から応募をいただき、選考の結果、16団体に対して支援を行うこととしました。また、組合員からの賛助金カンパは23団体の活動に対して662,251円の支援が集まりました。



市民活動応援プログラム支援金引渡し式

- ・CSRレポートを作成し、SDGsの項目に照らしあわせ、パルシステム神奈川の1年間の活動のまとめを報告しました。また、機関誌等で活動の紹介や協同組合原則の解説など、協同組合の価値を伝える記事を掲載しました。
- ・計画していた行政への訪問は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。

(2) 組織の透明性を高め、組合員の参加による民主的な運営をすすめます。

- ・役員を選考から組合員が関わり、総代会において役員選任議案として採決を行う役員選任制による候補者の選出をすすめました。また、組合員が主体的にかかわる総代会運営となるよう、総代会運営委員会を設置し、通常総代会当日の運営方法や議事進行についての検討を行いました。
- ・第21回通常総代会は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、書面による議決行使方法があることを総代会へ案内し、議決への参加を促しました。
- ・5月総代会議案説明会(全7回)は全会場中止としましたが、11月総代会議案上期報告会(全3回)及び、2月総代会議案次年度方針検討会(全5回)はオンラインによる開催としました。より多くの総代から意見が出されるよう、説明動画の事前配信を行ったほか、オンラインツール

を活用した総代同士の意見交換の時間を設けるなど、コロナ禍における新たな形式での開催に取り組みました。



オンライン上期報告会

- ・総代会活動説明会や総代会を対象とした夏休み親子企画は中止としましたが、下期以降は総代会オリエンテーションなど、オンラインを活用した新たな開催方法を取り入れて実施しました。



オンライン防災企画

- ・次年度の事業活動方針、当組合に期待することや共感度の高い取り組みなど組合員を対象とした独自アンケートを実施し8月(2,927人)、12月(2,201人)と、多くの組合員からさまざまな意見が寄せられ2021年度事業活動方針や第8次中期計画の策定に活用しました。
- ・組合員や地域の方が企画や活動を行う場として3カ所目の拠点となる『ふらっとパル鶴見』が4月にオープンしました。

(3) 必要な情報を迅速に伝える広報を強化します。

- ・4月に機関誌どりーむぺいじ臨時号を発行し、新型コロナウイルスの影響による商品調達状況や配送センターの供給の様子、5月以降の企画や活動についての情報を伝えました。

- ・組織名称の変更と合わせて当組合を紹介する広告を外部媒体に掲載したほか、新たに「組織案内」を作成しました。



「組織案内」

- ・活動を伝える取り組みとして、イベントレポート 63 件、ニュース 44 件、お知らせ 11 件、計 118 件の記事をホームページに掲載しました。また、プレスリリースを 13 件行い、報道各社へ事業や活動を伝えました。

(4) 未来を支える人材の採用・育成をすすめます。

- ・大学生就労支援の案内と同時に新たな大学 3 校と連携を取り、アナウンスを開始しました。また、これまで行っていた大学生を対象としたインターンシップのほか、1 DAY 職業体験 (インターンシップ) を新たに大学生対象に開始しました。



1 DAY 職業体験 (インターンシップ)

- ・これまでの研修方法を見直し、集合型研修の約半数を実験的にオンラインによる研修に切り替えました。また、事業活動の基本教育として個人情報、セキュリティ、環境、行動規範の教育を全職員対象に実施しましたが計画していた職種別の研修や全職員を対象とした福祉の学習会等は今年度については見送りとしました。

(5) 多様な働き方、安心して働ける職場環境・職場風土をつくります。

- ・業務効率の向上を目的に、電算処理業務のための A I - O C R (手書き文書の電子化) と R P A (自動入力処理) を導入しました。
- ・7月より宮前センターにて障がい者職場実習を再開し、10月より1人の採用が決定しました。
- ・11月よりテレワーク勤務基準を制定し、新たな形態での働き方を開始しました。1月より、看護休暇、介護休暇の時間単位取得を開始しました。
- ・働きやすい職場環境の整備として、職員の子どもの祝日保育は延べ44回131人の子どもを保育しました。また、若手女性職員を対象としたオンライン交流会や若手職員オフサイトミーティング、男性職員交流会など、職員が交流できる場づくりを行いました。
- ・職員の賃金体系の見直しとして、賞与管理基準を改正し、冬季賞与よりパートナー職員へ支給を開始しました。
- ・法定内の休日取得をめざし、年間の休暇取得計画の作成と実績の振り返りなどを行った結果、有給休暇は平均取得日数9.2日、平均取得率67.7%となりました。

(6) 災害時の体制を強化します。

- ・災害の際の組合員への広報手段のひとつとして、登録した音声を自動で配信するオートコールシステムを導入しました。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応 (マスク、消毒液等の手配、関係備品の導入) を優先課題として対応しました。
- ・事業継続計画 (B C P) の見直しについては新型コロナウイルス対応を優先したため今年度は見送りとしました。

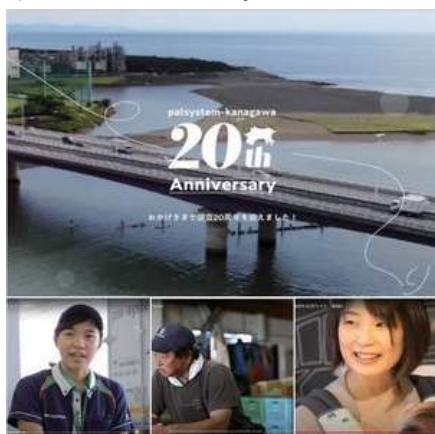
(7) 内部統制基本方針に定めた組織の健全性と透明性を確保する取り組みをすすめます。

- ・新会計システムを導入し、小口精算の方法を切り替えました。また、収益認識に関する会計基準の適用及び消費税申告方法の変更 (インボイス) への対応準備を行いました。

- ・パワーハラスメント防止のための講ずべき措置について現状の課題を抽出し、対応策を実施しました。また、組織としてのリスクの洗い出しを行い、事業所単位、組織全体に分けたリスク一覧とリスクマップ（リスクの影響度の大小を図として把握）を作成し、リスク評価を行いました。
- ・2020年度の事業所往査は予定した本部、配送センター、福祉事業所にて実施しました。また、テーマ監査として男女共同参画や女性活躍推進がどの程度進捗したかを点検する「2020年度ダイバーシティ内部監査」を実施しました。

(8) 設立20周年(創立45周年)を記念し、さまざまな取り組みを行います。

- ・これまでの歩みをまとめた20周年記念誌を作成し、関係者・総代・活動組合員・職員に配付しました。
- ・ホームページに20周年を紹介するミニ動画や写真で振り返る20周年特設サイトを作成しました。また、SNSによる情報発信としてFacebookでプレゼント企画を定期的に行いました。



ホームページ 20周年特設サイト

- ・『20周年記念デザイントラック』のデザインを組合員から募集し、259件の応募がありました。採用された2作品は記念トラックにプリントされ、県内の各エリアで配送を行いながら走行しました。併せて、トラックの実走シーンやデザインが採用された組合員のインタビューからなるミニ動画のページをホームページに掲載しました。



『20周年記念デザイントラック』

(9) 生活協同組合パルシステム神奈川へ組織名称を変更します。

- ・新組織名称のロゴデザインを作成し、ブランドマニュアルを改訂しました。
- ・組織名称変更に関するバナー広告をニュースサイトへ掲出したほか、新組織名称と設立20周年を伝えるスライド動画を作成し、駅構内や交通広告に掲出し、認知を広げる取り組みを行いました。

(10) 2020年度総事業収入490億円、事業と活動の原資となる経常剰余2.5億円をめざします。

- ・2020年度の総事業収入は566億円、事業と活動の原資となる経常剰余は、22.5億円となりました。

(11) 未来に向けて事業の構造改革の検討を開始します。

- ・組織が健全に持続するための事業構造改革をめざし、6月に構造改革プロジェクトを立ち上げ、経営構造上の課題の抽出を行うとともに次年度からの改善に向けた準備をすすめました。



構造改革プロジェクト